

徒増加して收容することを得なかつたから、同年城西元雅々館跡に移り、更に西町神護寺に轉じて致遠館と稱した。

エイカン 永閑 ↓ヲバタエイカン 小幡永閑。

エイガンジ 榮岩寺 金澤六斗林曹洞宗龍淵寺の塔頭で、正保三年の建立に係るものであつたが、その後絶えた。

エイキイン 永禧院 加賀藩主第十二代前田齊廣の子壽々姫、即ち本多政和夫人の法號。詳しくは永禧院寛安文琴大禪定尼。

エイギミ 榮君 ↓マサギミ 榮君。

エイキユウジ 永久寺 金澤下小川町に在つて眞言宗に屬する。山號は金澤山。貞享二年の由緒書によれば、往昔石川郡白山に在つて一王寺と稱し、後金澤に轉じて金澤寺と號した。文祿中の住持は木食長意で藩侯の祈禱所となり、その弟子俊榮、また秀雅相襲ぎ、慶長七年淺野川川上で利長から寺地を受けたが、十年秀雅は俱利伽羅長樂寺を再興する爲金澤寺を弟子秀縁に譲り、寛永四年又寺地を卯辰に移した。この秀縁の時に利常へ献上物をなすに金澤寺と記した書付を上げた所、金澤山永久寺と稱すべき旨命があつて改めた。寺領は寛永十三年以來白石であつたが、承應四年五十石に改められた。

エイキユウジ 榮休寺 羽咋郡正友に在つて、眞宗東派に屬する。

エイケン 永賢 白山宮莊嚴講中記録天文廿三年の條に四月朔日白山頂上に煙立登るを見て、『五月廿八日ニ山伏之實乘、永賢遺見之。』とある。その『々』をニと讀む者もあるが、書中往々『々』を坊の略に用ひた所がある

るので、實乗坊永賢と見るべきである。

エイケン 英賢 前田利長の薨後、藩中で之を呼ぶに英賢と稱したことがある。蓋しその法諡が瑞龍院聖山英賢であつたからである。

エイケンジ 影顯寺 石川郡下柏野に在つて、眞宗東派に屬する。

エイコウ 永康 ↓タイアンエイコウ 泰安永康。

エイサイ 榮齋 鳳至郡穴水の人。天正六年長連龍が越前から能登に還らうとした時、先づ伊久留了意を遣はして國中の同志を募らしめたが、榮齋は了意を助けてその任務を全くせしめたと傳へられる。

エイザンオシヨウオキブミ 瑩山和尚置文 一名洞谷山置文。鹿島郡酒井村永光寺の開山瑩山紹瑾の置文で、同寺の所藏に係る。その一つ元應元年十二月八日付のものは、永光寺開關の來由を記し、住持と且那と協力して之を護持すべき趣旨が述べられてゐる。また元亨三年十月九日付のものは、永光寺・圓通院・寶應寺・光孝寺・放生寺・淨住寺が瑩山門徒の相承すべき寺々であるから、永代練行修持せねばならぬことを遺囑してある。

エイザンオシヨウセイキ 瑩山和尚清規 一册。瑩山紹瑾が大乗寺及び永光寺に於ける年中の行事を録したものであるが、その中に坐禪用心記を載せるものは別巻とすべきであらう。鹿島郡酒井永光寺の所藏に係る。

エイザンシヨウキン 瑩山紹瑾 越前多福の人。文永五年を以て生まる。十三歳にして剃髮し、永平寺二代孤雲懷辨末後の小師となり、三十二歳にして大乗寺徹通義介の宗旨を

參得し、乾元元年義介に繼いで同寺二代の住持に補せられ、一住十年大に寺門を張つた。應長元年加賀の大豆田村に淨住寺を創めて之に居り、大乗寺には臨濟の恭應運良を招いた。文保二年能登の祖忍尼紹瑾の爲に鹿島郡酒井保の地を寄進したので、紹瑾は亦こゝに一字を建て、洞谷山永光寺と號し、その頃羽咋の郡司が光孝寺を建て、紹瑾を招するに及び、三寺を兼管して常に來往教化した。時に鳳至郡に教院があつて諸岡寺といひ、定賢律師之に住したが、定賢は又寺内觀音堂に屬する所領を割いて紹瑾を譲り、以て洞宗興隆の道場たらしめた。紹瑾乃ちこゝに伽藍を興し、元亨元年六月六日晋山式を行ひ、名づけて諸岳山總持寺と號した。三年紹瑾は光孝寺をその弟子靈庵至簡に附し、淨住寺を無涯智洪に譲つたが、正中元年八月七日に至り、更に法鏡峨山紹瑾を擧げて總持寺の席を繼がしめ、自ら退いて永光寺に隱棲した。翌二年八月八日紹瑾病篤く、乃ち永光寺を明峰素誓に譲り、十五日夜半大衆を方丈に集めて垂示し、筆を揮つて遺偈を書し、溘然として坐化した。時に世臘五十八。後正平九年後村上天皇は紹瑾に佛慈禪師の諡號を賜ひ、安永元年には弘徳圓國師、明治四十二年には常濟大師の號を贈られた。その元亨元年八月後醍醐天皇が十種の法問を垂れ給ひ、紹瑾詳かに之に奏對したこと、同年九月十四日藤原行房が勅額を書して下し給うたこと、二年八月二十八日給言を下し、總持寺を日域無雙の禪林賜紫出世第一の道場として勅願の大官寺に陞せ給うたことの如きは、未だその眞偽を明らかにせぬ。

エイジン 英之 ↓カハサキヒデノリ 河崎秀憲。

エイジュイン 永壽院 鳳至郡總持寺山内にあつて、塔頭如意庵に屬してゐた。貞和元年峨山紹瑾の建立に係るものであつたが、今は存せぬ。

エイジュイン 永壽院 加賀藩主第二代前田利長の養女、青山吉次夫人の法號。詳しくは永壽院梅憲貞普大姉。

エイジュイン 榮壽院 金澤松山寺の塔頭で、元和五年横山山城守長知の室三回忌の爲に造つたものであつた。夫人は前田源峰の妹で、元和三年四月十一日に歿し、法號を無量院年室榮壽大姉といはれた。寺地は松山寺の向かうであつたが、明治六年無量無住の寺院廢止の令によつて破却せられた。

エイシュニン 榮春院 鹿島郡三引に在つて眞言宗に屬する。初め赤藏神社の別當であつた。天正中赤藏山の僧坊は兵燹に罹つて衰微したが、長連龍の田鶴濱に住するに及んで、その一なる不動院を復興し、母榮春院花溪樹盛の法名を採つて、榮春院と改め、石動山東林院の法弟勝榮を住持たらしめた。

エイジュンジ 永順寺 金澤川上新町に在つて、眞宗東派に屬する。初め袋町に居たが、萬治二年に小立野土取場に轉じた。後明治三十八年川上新町德善寺と併合し、德善寺の堂宇を用ひて寺號を更に永順寺と稱した。

エイシヨウ 永祥 ↓リンオウエイシヨウ 麟翁永祥。

エイシヨウ 英昌 ↓ケイガンエイシヨウ 桂巖英昌。

エイシヨウアン 榮昌庵 金澤西町に在つ